

葛谷栄一の 見聞私見



2月下旬は年暮末を
間近にして、入試やら
卒業式の準備やらと何
かとおぼろしい時期
であるが、筆者にとっ
ては楽しい時期でも
ある。

私的な話で恐縮な
がら、家内が郡内にお
る本市のM小学校でお
箏と三味線をホラテテ
ィアで教えている。日
本の伝統音楽、いわゆ
る邦楽に三曲と言われ
るものがあるように、
お箏と三味線に尺八を
加えて演奏する曲も多
い。教えているのは総
合学習の授業とクラブ
活動の二つであるが、
筆者はその手伝いとい
うことで尺八を合わせ
るために出かけてい
る。既に5年は続け
ているが、毎回出かけ
ることを前提に、でき
るだけ仕事の時間調整
をして、8割方は参加
している。総合学習は
6年生を対象に短期集
中型で授業が行われ、
前年のうちに終了して
いるが、クラブ活動に
ついては年明けも含め
て年間16回にわたっ
て放課後にクラブ活
動としての練習を行
う。その1年間の成果
を発表する会が2月下
旬に行われる。

朝、授業開始前の約
20分ほど、全校生徒と
先生が集まる体育館で

演奏する。今年は、さ
くらさくら、三段の調
べ、うれしいひな祭
り、越天楽の唄でお
箏と尺八を中心に、曲
によって三味線と太鼓
をはじめとする鳴り物
も加えて演奏した。

毎回の練習での成長
ぶりを見るのも楽しみ
であるが、2月下旬の
演奏会はいつも見事で
感動させられる。大人
の場合、本番ともなる

と緊張してしまうため
か、たいていは練習時
のような演奏がどきな
いが普通である。と
ころがここでは、いつ
も本番が最高。とにか
く集中の要合がすご
い。音楽はなみ切って
ぐんぐん演奏をすす
めていく。こちらも子
どもの見事な演奏に乗
って、本音に賛持およ
く尺八を吹かせてもら
っている。と同時に、
ホラテティアの喜びを
もかみしている。

ちどどて日本の伝統
音楽はきわめて遠い存
在である。お箏や三味
線等の曲は勿論のこと
と、音を聞いたことも
ない子どもが多く、ま
して触った経験のある
子どもは尠無だ。それ
が、3回の練習でさ
くらさくらを弾くこと
ができるようになり、
あつという間に三段の
調べ等のけっこう本格
的な曲も演奏できると
ころまで成長する。回
数を重ねて曲が体に入
ってくるようになる
と、まずと体が反応し
て曲、音楽を紡ぎ始め
る。子どもの持つ潜在
能力の大きさに驚かさ
れ、とにかく体験する
ことの重要性を痛感さ
せられる。

こうしたことは音楽
の世界だけにとどまら
ない。人間が自立して
生きていくために、食
と農が特に重要である
ことは言うまでもな
い。これを食農教育と
して自ら田畑を耕し、
種を蒔き、管理をし、
収穫する。そして収穫
したものを自ら調理し
ていただく。今は食を
含めて何でもお金で購
入することができる時
代であるからこそ、子
どもの時代に、その一
連の過程を身に着くま
でしっかりと体験させ
ていくことが欠かせな
い。子どもの潜在能力
を引き出していくには
体験教育が一番である
が、これを支えるたく
さんのホラテティアが
必要となる。ホラテテ
ィアする側にとつて子
どもの成長は何よりも
楽しみであり、その報
いは大きい。

(農的社芸センター
研究所代表)

ボラテティアが支える 体験教育